

# 舞鶴空き地学会 報告書

舞鶴空き地学会会長

浦岡 雄介



場所：福知山市内

主催：福知山市佐藤太清記念美術館

2019.10.06

## ●はじめに

福知山で空き地学会を行おうと思ったのは、まちを歩いていたときにたくさん面白い空き地を見つけたからだ。

空き地が面白いとはどういうことか。まっと行政からすれば、特に地方はまちの中心部の空洞化という問題を抱えており、空き地や空き家が増えることはまちの課題なのである。

しかし、空き地学会の視点はそこにはない。空き地をどう有効利用しようかなどとは全く考えない。ただ目の前に空き地があり、その空き地が物語を語ってくるのだから。

話を戻すと、なぜか我々は空き地が「気になる」のである。その気になるポイントを空き地鑑賞しながら深めていくのである。これは日常から非日常に向かう冒険であり、美を見つける詩的な体験だ。つまりとても絵画を鑑賞する体験と似ていることに気付く。

そして福知山にある空き地はもともと城下町であることからその土地のもつ形状や風景からその歴史を強烈に感じる場合が多かった。

まずは長屋が多いことである。昔からの長屋ではあるが、法律が変わることによりひとつの建物でありながら所有権により分断され、その家の事情により取り壊され、新たな建物が経つ。その繰り返しと建物の更新により、ちぐはぐな風景が生まれやすい。持ち主が建物を持続させる体力がなくなった場合空き地となるのだが、アスファルトをひくかひかないかで税金の大きさが変わるため多くはむき出しの地面が露わとなる。いわば、福知山の空き地事情にはその土地がもつ歴史的な地層がはっきりと見えてくるのだ。

また舞鶴空き地学会独自の空き地鑑賞ポイントの観点からも、福知山の空き地はとても面白く感じるのだ。

もうひとつ、ここで開催を決めた理由がある。

ここ福知山では2020年度、大河ドラマに関連した一大キャンペーンが繰り広げられることが予想される。「飾られた歴史」という圧倒的な力でこの福知山が覆い尽くされるだろう。この一方で、もともとのその土地に根付く文化や風土が公共によってないがしろにされてしまう懸念がある。

このキャンペーンが去ったのち残されるものが使い捨てられ、荒れ果てた風景であってはならない。だからこそ、我々が持つ芸術や文化の力でしなやかに日

常を生きる智慧を育む必要があると思うのだ。

人間が日常を工夫し豊かに生きるための智慧や技術が芸術であり文化である。その底流にある力を今回の「福知山交差展」は見せ、さまざまな感性の交差から生まれる何かを探ろうとしている。そこに舞鶴空き地学会は賛同し、日常にある空き地を多角的な視点から観察し、楽しむことができることを提示したいと考えた。これは日常をしなやかに生きるためのひとつの智慧だと思っているからだ。

最後に今回このような素晴らしい企画に参加させていただき、福知山市佐藤太清記念美術館さまに感謝いたします。そして、われわれのようなふわふわとした学会を受け入れていただいた懐の深さに敬意を表します。

また、アドバイスや日程の調整などをお世話になった学芸員の新井厚子さまにあらためて感謝申し上げます。

いさざ会館 浦岡 雄介



新しい空き地（新町商店街、タイルや陶器のかけらが落ちている）

① 持ち主の意思があらわれる空き地



手前のコーンが気になる。空き地の中央からずれており、入ってほしくない意思もずれている。また年月の経過からコーンが朽ちているのだが、それでもなお、立てたい意思是朽ちない。両サイドの長屋の断面からは包み込まれるような圧迫感を感じる。

② 悲しい木が見える風景の空き地



すっぱりと切り込まれてしまったイチョウの木は裁判所のシンボルだ。手前の空き地がさらに物さびしい物語をかたってくる。しかしながらこの空き地を守るのはファンシーな動物たちである。

### ③ ライブハウスみたいな空き地



ポツンと倉庫がある。両側のトタンには一切の飾りがなく、一切の無駄がないミニマルな空間。中心にたち手を打つとよく響くのだ。

### ④ かなりきれいな家の跡



家の跡は接した隣家がなくなるにより生ずる。この壁面には3種類の壁材が使われており、それが抽象画を思わせる。また、壁面に這い出す配管のカバーや排気口は壁面に心地よいリズムを与えている。これぞ、建造物の構造が生み出す自然のふううけいであると思うのである。

⑤ 桐が育つ家に囲まれた空き地



この空き地はかなり特殊である。家に挟まれた狭い通路を通り、家に囲まれた空き地があるのだ。その入り口には空き地に生える植物のうち、最も成長が早くて大きくなる性質をもつ桐が生えている。

⑥ 隣家との境になる空き地的な空間



このメゾネットタイプのマンションの玄関部は隣家との境界を小さな空き地的空間を作ることによってわけている。しかしこの空き地的空間はどちらの家のものであるだろうか。その利用についてさまざまな物語を想像させる。

⑦ オブジェのある駐車場



駐車場が乱立し、駐車場の空洞化が目立つ。一応止めてはいけないようにポールやタイヤ、ブロックなどで停めないように主張する。しかし、年月月つほどにその意味とオブジェは風化していく。長い年月をかけそれらは微妙に移動し、その痕跡を地面にのこす。

⑧ 自販機が遠い駐車場



なにかあったであろう空き地は駐車場として生まれ変わった。よくみると遠くの方に傾いた自販機が見える。まず「遠いわ!」というツッコミが心の中で響く。それはよく見ると倉庫をふさぐように佇んでいる。また、空き地はその自販機を境に2色のセパレートになっており、左右の空間が生まれているのが面白く感じる。

## 舞鶴空き地学会 in 福知山 (2019.10.06)

### ○参加者の感想① (綾部市M博士)

- 気になった空き地 (番号7)

- 気になったポイント

駐車場の置物とコンセキ

- なぜ気になったのかその理由

タイヤやブロックが無造作に転がっているようで、実は意図してそこへ配置されている。その空間に人の気配を感じ想像力をかきたてられた。

- 今後その空き地はどうなるだろうか

配置された「モノ」たちはその後もゆっくりと駐車場の中を移動し続け、太陽の周りを周遊する小惑星のように無限に輪を描いていく。

- 感想・ご意見

あやしい人たちで路上たんけんすごく楽しかったです。改めて町を歩く面白さ、視点を変えて想像力を膨らませることで目の前の風景がわくわくする世界になることに可能性を感じました。綾部でも空き地を調査します！空き地学科にも入りたいです!!ありがとうございました。

### ○参加者の感想② (綾部市Aさま)

- 気になった空き地 (番外、報告書3P掲載、空き地になって間もない場所)

- なぜ気になったのかその理由

そこにあったであろうモノたちがまだその場所に残っていてそこでの空気や生活感を想像したり思いを巡らせるのが楽しい。

- 今後その空き地はどうなるだろうか

残ったものたちの上に新たな生活が始まる入れ物が経つのだろうがその前の記憶をわすれることのないここ (商店街) の人たちがいるのがよいなあ。

- 感想・ご意見

会長の案内のもと、誰かと一緒にめぐる空き地は取っても面白くて、新しい楽しみ方でした。自分はこれが好きだなあというのに気付いたり、他の人はこんな楽しみ方をしているんだというのが面白かったです。日常なんだけど非日常の空間が広がっている、意図しない形になっていたりするのが不思議で気になる。その行きつく先を考えるのがまた面白いですね。



○参加者の感想②（福知山市Kさま）

●気になった空き地（番号7）

●なぜ気になったのかその理由

360度見渡せた駐車場。昔は密集していた場所から空き地がポツリポツリと出来、不思議な形（空き空間）が出来ていく。急にむき出しにされた面が心切なくなる。

●今後その空き地はどうなるだろうか

さらにいびつに拡大していく方が楽しい。まとまった土地になると宅地になりそうでそれは残念。

●感想・ご意見

私は空き家を見て、特に増築が重なった家屋に経緯を想像し心もえます。その先に空き地があるのだ。あるいは空き家の周りに空き地がある。リンクしているなど感じました。またじっくりと見てはいけないものと感じていたのが、今日がっつき見ることで楽しかったです。

○参加者の感想②（丹波市Aさま）

●気になった空き地（1番）

●気になったポイント

一番初めに紹介していただいた持ち主の意図を感じる空き地が印象に残りました。

●なぜ気になったのかその理由

空き地の鑑賞の仕方、読み解き方がとても面白かったから。

●今後その空き地はどうなるだろうか

風景が変わってしまうのはさびしいですが、有効活用されてしまうのかと思います。

●感想・ご意見

とても楽しかったですので又参加させていただきたいです。

